

平成30年度第2回秋田県立保呂羽山少年自然の家運営協議会 要旨

1 日 時 平成30年11月26日(月) 午後2時30分から午後4時まで

2 場 所 秋田県立保呂羽山少年自然の家 研修室

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

伊藤委員(副会長)、佐藤委員、白澤委員、鈴木(康)委員(会長)、高橋委員、渡部委員

(2) 教育庁生涯学習課

藤原主任社会教育主事、櫻庭社会教育主事

(3) 保呂羽山少年自然の家

高橋所長、田村副主幹(兼)班長、照井主任社会教育主事(兼)班長、

北島社会教育主事、佐々木社会教育主事、石塚主査、菊地技能主任、瀬戸研修員

4 議事概要

(1) 所長あいさつ

(2) 生涯学習課あいさつ

(3) 議事

- ① 平成30年度前期(4月～10月)の運営状況について
- ② 平成30年度後期(11月～3月)の運営計画について
- ③ 第1回運営協議会における課題等に関する対応状況について

5 委員からの主な意見

- ・ 繁忙期における利用希望の調整については、予約情報を公表するなど利用団体側に働きかける取り組みも必要である。
- ・ 参加者の感想や体験談を発信していくことが、新規利用者の獲得に繋がると考える。
- ・ 多少の危険を伴う活動メニューのほうが多面的な成長に繋がると考える。ただし、その際の安全管理は十二分に行う必要がある。
- ・ 未就学児の利用拡大には、「森の中」という非日常を生かした活動メニューの開発が効果的であると考える。
- ・ 既存の社会教育団体やスポーツ団体との連携を図った事業は双方のメリットになると考える。
- ・ プロジェクトアドベンチャーの手法は、生徒指導や学童保育の運営上でも参考になる部分があることから、大人を対象とした講習の機会を提供してはどうか。